

## Q14

リネンの消毒には熱消毒や化学消毒が用いられますが、次亜塩素酸ナトリウム処理のときの希釈濃度は何%ですか？ また、噴霧して使用したいと思いますが、よいですか？

## A

リネンを消毒するということは、血液、体液、排泄物で汚染されていることを意味します。そのため、スタンダード プリコーションやユニバーサル プリコーションの考えのもと感染性のあるものとして、必ず手袋を着用して処置します。カラーリングしたビニール袋や水溶性ランドリーバッグに入れ、感染性であるバイオハザードマークをつけ運搬します。感染性リネンの消毒には熱水消毒と次亜塩素酸ナトリウム液に浸漬する方法が用いられます。

熱水消毒は80℃10分間として熱水洗濯機が使用されます。洗濯後乾燥させます。また、便などで汚染されたりネンは、大きな汚染は水洗除去したのち、次亜塩素酸ナトリウム液(0.05～0.1%)に30分間浸漬処理し、洗濯し乾燥させます。また、噴霧して使用したいとの問いですが、それはよくありません。消毒が確実でないこと、作用時間が不十分であること、消毒薬を吸い込む可能性があることなどから、噴霧での使用はしないことです。

一般患者が使用したりネンは、感染性リネンと区別し、一般のリネン袋にいれ、通常の洗濯をします。

### 文献

- 1) 辻 明良：感染制御のための消毒の手びき。ヴァンメディカル，東京，2004
- 2) 辻 明良ほか，編集：院内感染対策へのサポート。南山堂，東京，2003
- 3) 大久保 憲編集：洗浄・消毒・滅菌のポイント209，メディカ出版，大阪，2004
- 4) 辻 明良監修：きちんと感染管理。全国社会福祉協議会，東京，2005

(辻 明良)